

●●●●マンション大規模修繕工事

施 工 計 画 書



Kashiwabara
Corporation

平成30年1月作成

(株)カシワバラ・コーポレーション

統括営業本部 第二営業部 東日本グループ

目 次

1	工事概要	P. 2～4
2	施工計画	
2-1	総則	P. 5
2-2	適用範囲	P. 5
2-3	工期	P. 5
2-4	受注者	P. 5
2-5	協力業者	P. 6
2-6	管理組織図	P. 7
2-7	施工要領	
a	共通仮設工事	P. 8
b	直接仮設工事	P. 9
c	下地補修工事	P. 10～16
d	シーリング工事	P. 17
e	外壁等塗装工事	P. 18
f	鉄部等塗装工事	P. 19
g	防水工事	P. 20
h	その他工事	P. 21
2-8	品質管理計画	P. 22～23
2-9	安全管理計画	P. 24～25

▲

1 工事概要

1-1) 工事施工計画書とその目的

本書は、『●●●●マンション大規模修繕工事』の施工について適用する。

本工事計画書は、(株)カシワバラ・コーポレーション（以下、受注者という）が施工しようとする標準工事の工事仕様、作業標準手順、安全管理、環境管理、品質管理などについて規定するものである。

1-2) 発注者

●●●●マンション管理組合法人 (以下、発注者という)

1-3) 工事名称

●●●●マンション大規模修繕工事

1-4) 工事場所

東京都練馬区●●●●●●●●

1-5) 工事内容

- | | |
|------------|-------------------|
| a. 共通仮設工事 | g. 鉄部塗装工事（剥離工事含む） |
| b. 直接仮設工事 | h. 防水工事 |
| c. 下地補修工事 | i. その他工事 |
| d. タイル補修工事 | |
| e. シーリング工事 | |
| f. 外壁塗装工事 | |

1-6) その他の事項

その他の事項は、以下の記載通りする。

1) 設計図書の優先順位

- ① 施工計画書
- ② 国土交通省建設工事標準仕様書最新版（改修仕様書）

2) 質疑

- ① 既存建物と設計図書の内容に相違がある場合、または、疑いが生じた場合は、速やかに報告・協議し、その処理方法については、発注者の指示に従う。
- ② 発注者との協議の結果、必要に応じて設計変更を行う。
- ③ 設計変更に至らない事項は、軽微な変更による。

- 3) 軽微な変更
- ①現場の納まり、取合いなどの関係で、材料の寸法、取付位置、取付方法等を替え、これらによって数量が多少増減するなどの軽微な変更をする場合は、発注者の指示による。
この場合においては、請負金額は増減しない。
- 4) 設計変更
- ①発注者と協議を行った場合、または発注者の要求等により軽微な変更該当しない設計変更が生じた場合は、原則として受注者は、事前に見積書を提出し、発注者の承認を受けた上で、変更工事に着手する。
- ②工事単価については、急激な物価変動等がない限り、契約時の数量・単価を基準として請負金額の増減を行い、諸経費は原則として工事契約時の率とする。
- 5) 実数精算工事
- ①実数精算項目は、工事契約時の数量及び単価と実際の施工数量の増減により補修施工図面等に基づいて精算する。
- ②実数精算項目の補修に当たっては、事前調査・マーキングを行い、その数量を監理者に提出し、原則として承認を受けた後、工事に着手するものとする。
- ③数量は各面・各階毎等にわかりやすく数量集計して発注者に提出する。
- 6) 管理組合との協議事項
- ①工事着手前に、居住者工事説明会を実施する。
- ②仮設建物の配置計画、色彩計画については、受注者は決定に必要な資料を発注者、発注者に提出し、協議の上決定する。
- ③工事の円滑な実施を図るため、発注者、受注者の二者による定例会を開催する。
- ④定例会の議事録は、受注者が作成する。
- ⑤開催は、原則1回/月とし、工事の進捗状況、居住者問い合わせ内容等について報告する。
- 7) 現場管理等
- ①工事現場の管理は、労働基準法、労働安全衛生規則、その他の関係法規に従って行う。
- ②工事現場の作業員や出入りする者の監督、風紀・衛生の取締まりを実施し、並びに火災、盗難その他事故防止について十分な注意をする。
- ③工事上での建物の破損、災害等については全て受注者の負担とする。
- ④工事現場内は、常に諸材料その他の整理整頓を行い、残材・不要材、既存撤去材、ケレンカス等は、その日の内に片付け及び清掃を作業員に指示し、その確認チェックを行う。
- ⑤工事期間中は、1名の現場代理人を常駐させる。
- 8) 補修箇所の事前調査・マーキング
- ①足場仮設及び旧仕上材ケレン後、工事箇所の事前調査・マーキングを行う。
- ②事前調査を行う工事箇所及び調査方法は、実数精算見積書の内容に従って予めマーキング計画を提出し、発注者の承認を受ける。
- ③補修箇所は、補修数量・方法を図面に記録し、その調査図を作成し、発注者の承認を受ける。
- 9) 補修数量と補修施工図
- ①前項の工事箇所の事前調査に基づき、補修数量を集計し、見積書との増減数量を提出し、発注者の承認を受ける。
- ②補修箇所・方法については、発注者と打ち合わせの上、実施する。
- ③原則として、実数精算の修繕項目については、工事着手前に調査数量を提出し、発注者の承認後、実施する。
- ④補修施工図は、各面毎に記載し、数量の集計は、各階毎に項目別に集計し、発注者に提出する。

⑤補修数量と補修施工図は、発注者の承認を受け、竣工図書に添付する。

- 10) 見本
①材料、仕上材、色合い、調合の程度などは、事前に見本 を提出し、発注者の承認を受ける。
- 11) 官公署その他への手続き
①本工事施工に必要な諸官公署、その他の手続きは、延滞なく行う。
②それに必要な費用は、受注者負担とする。
- 12) 災害及び公害防止
①工事の施工時は、災害、公害防止を図り、関係法令等に従い適切に処理する。
②居住者を含む第三者に及ぼしてはならない。
③災害または、公害発生時は、速やかに適切な処置を取り、発注者に報告する。
④本工事に関する公害防止対策の費用は、原則として受注者負担とする。
- 13) 発生材などの処理
①工事で発生したゴミ、廃材などは、生活環境に配慮して収容し、定期的に場外に搬出する。
- 14) 養生その他
①工事中は適切な養生を行い、隣接建物、道路、駐車場その他に対し災害を与えないように養生を施す。
②工事中、居住者に多大なる影響及び危険を与える恐れのある場合には、監理者の指示に従って、仮設、養生、施工方法の変更を行う。
③建物等に損害、汚染等を生じさせた場合は、速やかに現状復旧する。
- 15) 工事予定と周知
①居住者の生活に特に影響を及ぼす工事に取り掛かるときは、掲示、チラシ等有効な手段で、工事の予定、概要を周知する。
②各戸へのチラシは、他の広告チラシと区別するため、カラー用紙を使用する。
- 16) 後片付け
①工事を実施したその日の内に、工事を完了した部分、建物廻りの後片付け及び清掃をする。
- 17) 竣工検査
①工事完了後の竣工検査は、受注者、発注者、二者の立ち合いを基に行い、手直し並びに残工事完了の上、再検査を受ける。
- 18) 現状復旧
①工事が完了した工事部分、建物廻りについては、速やかに片付け清掃を行う。
②物品並びに建物に損害を与えた場所は、工事完了後、延滞なく現状に復旧し、発注者の承認を得る。
③現状復旧に掛る費用は、全て受注者の負担とする。

2 施工計画

2-1) 総 則

本工事は、集合住宅の修繕工事であるので、その特殊性を十分考慮し、財産及び生活環境の保護に努め、居住者及び受注者が相互に協力し、円滑な工事の進行に努める。

作業所においては、新規入場者に対し安全教育を実施する。

毎朝朝礼を実施し、各職種毎に安全衛生指示事項に従い注意事項等の指示を行なう。

また、KYK（危険予知活動）の援助を行なう事とする。

作業中においては、作業員の指導監督をし、必要な標識等を設置しまた、危険箇所や不
安全行動等についてただちに是正指導し、巡回時に確認するものとする。

2-2) 適用範囲

本施工計画書は、『●●●●マンション大規模修繕工事』
に適用する。

2-3) 工 期

平成30年8月19日 ～ 平成31年1月15日

2-4) 受注者

埼玉県さいたま市南区辻7-11-22

(株)カシワバラ・コーポレーション

統括営業本部 第二営業部 東日本グループ 北関東営業所

TEL 048-837-2791

FAX 048-837-2792

2-5) 協力業者

共通仮設 工事（ハウス等）

住 所：
会社名： 未定
TEL：
FAX：
担当者：

直接仮設 工事（楔式足場）

住 所：
会社名： 未定
TEL：
FAX：
担当者：

下地補修 工事

住 所：
会社名： 未定
TEL：
FAX：
担当者：

洗 浄 工事

住 所：
会社名： 未定
TEL：
FAX：
担当者：

鉄部塗装 工事

住 所：
会社名： 未定
TEL：
FAX：
担当者：

金物 工事

住 所：
会社名： 未定
TEL：
FAX：
担当者：

共通仮設 工事（備品等）

住 所：
会社名： 未定
TEL：
FAX：
担当者：

直接仮設 工事（単管足場）

住 所：
会社名： 未定
TEL：
FAX：
担当者：

シーリング 工事

住 所：
会社名： 未定
TEL：
FAX：
担当者：

外壁塗装 工事

住 所：
会社名： 未定
TEL：
FAX：
担当者：

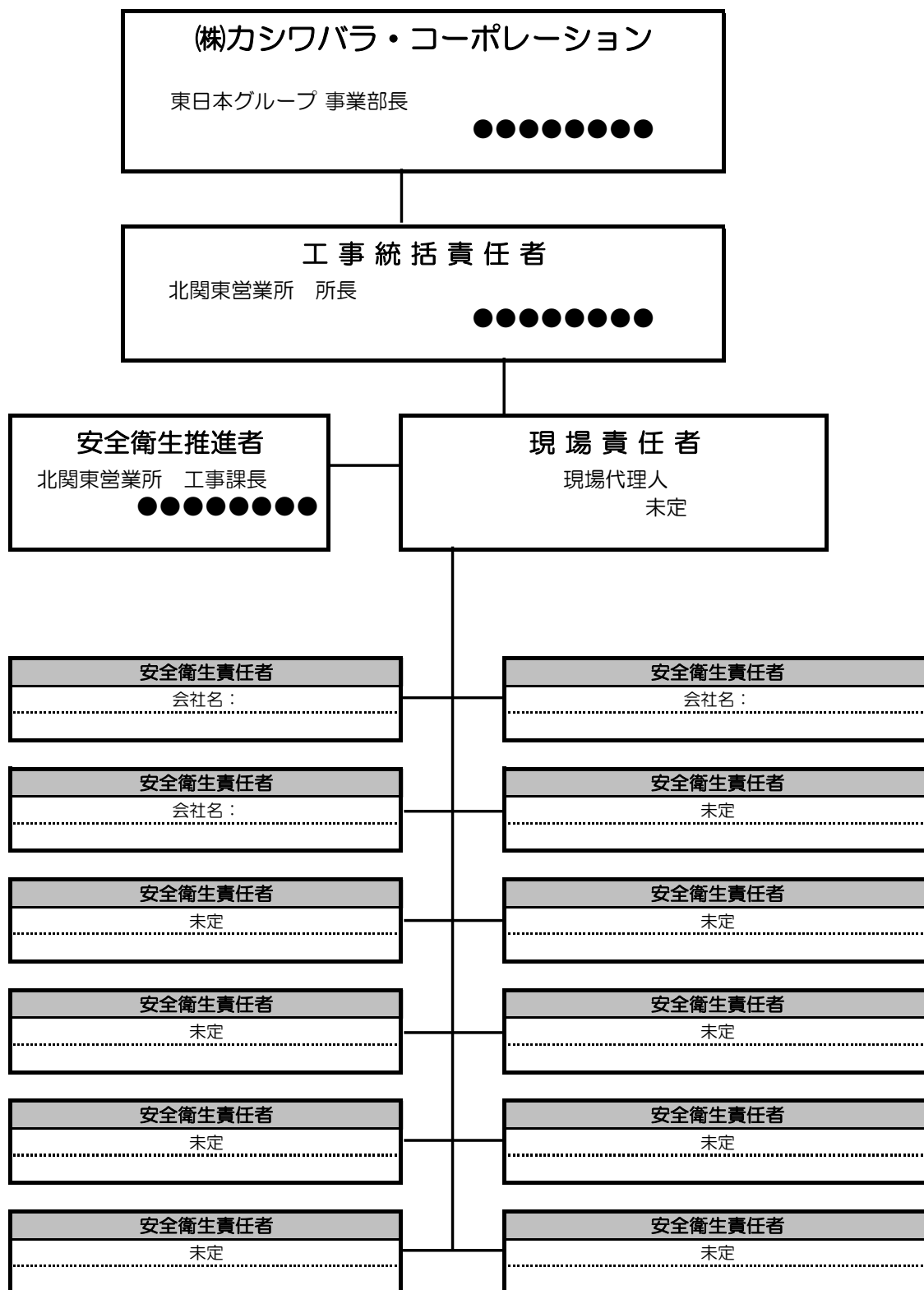
防 水 工事

住 所：
会社名： 未定
TEL：
FAX：
担当者：

硝子 工事

住 所：
会社名： 未定
TEL：
FAX：
担当者：

安全（施工）管理体制表



2-7) 施工要領

a 共通仮設工事

a-1 仮設材料について

- ・ 仮設物に使用する材料は、使用上、差し支えない程度のものを使用することが出来る。

a-2 掲示等について

- ・ 1階エントランスに、工事用掲示板を仮設する。

a-3 災害防止について

a-3-① 作業所の対策

- ・ 作業場の内外を問わず工事実施に伴う危険防止、騒音防止、火災防止、風水害被害防止のため、常に関係法規に従って、養生など方策を講じる他に損害を与えた場合には受注者は、その責を負わねばならない。
- ・ 現場代理人は常駐とし災害防止に努める。

a-3-② 居住者への対策

- ・ 居住者に対し、「頭上注意」「立入禁止」等の標識を掲示する。
また、必要に応じてバリケード、ロープ等で立入禁止区域を区画する。

a-4 仮設建物等について

a-4-① 工事事務所及び作業員休憩控室

- ・ 工事事務所は204号室を借用とし、部屋内は養生を行い、工事完了後は現状復旧すること。
- ・ 工事事務所及び、作業員休憩所控え室は、敷地内に仮設ハウスを設置する。
- ・ 仮設建物等の大きさ、形状等を検討及び提案した上で、発注者に承認を受ける。
- ・ 備品：電話（1回線・FAX兼用）、机、椅子、テーブル、コピー機、消火器、湿度計等を設ける。

a-4-② 便所

- ・ エントランス内借用。トイレ内は養生を行い、工事完了後は現状復旧すること。

a-4-③ 資材、廃材置場等

- ・ 敷地内に設置する。

a-4-④ 道具洗淨場

- ・ 沈澱枡を設ける。
- ・ 汚水枡付近に設置する。

b 直接仮設工事

b-1 官公庁署への届出手続きについて

- ・足場存期間60日以上の為、労働基準監督署に機械等設置届を提出する。

b-2 足場について

- ・建物外周に楔式足場を設置する。（一部単管足場）
- ・足場部分には、昇降階段を設置する。

b-3 養生について

- ・建物全周に飛散防止ネット（二次品）を張る。
- ・各階に、ラッセルネットによる落下防止水平養生を行う。
- ・その他必要箇所には、破損防止の養生を行う。

b-4 安全対策について

- ・屋上への出入り口は、毎日作業終了後に施錠する。
- ・1階廻りについて、通行者及び居住者に対し、危険表示テープ、危険表示ウレタンフォーム、安全看板による保護、注意対策を行う。
- ・仮設組立及び解体時は、資材搬入出車の誘導や居住者等の誘導の為、ガードマンを配備する。

b-5 足場組立て解体要領について

b-5-① 楔足場

仮 設 手 順	中間点検・確認	解 体 手 順
資 機 材 搬 入		使 用 工 具 の 確 認
資 機 材、工 具 の 確 認		作 業 開 始 前 KYK
作 業 開 始 前 KYK		作 業 段 取
作 業 段 取		壁 繋 ぎ・手 摺 の 取 外 し
部 材 の 配 備		布 枠 の 取 外 し
ジャッキベースの設置		手 摺 の 取 外 し
立 て 枠 の 取 付 け		立 て 枠 の 取 外 し
手 摺 の 取 付 け		ジャッキベースの撤去
布 枠 の 取 付 け		資 機 材 搬 出
壁 繋 ぎ・手 摺 の 取 付 け		解 体 完 了
安 全 標 識 の 取 付 け		
自 主 検 査		
社 内 検 査		
組 立 完 了		

- ・足場組立て等作業主任者による点検を行う。
- ・資格証のコピーを現場に控える。
- ・点検時期は足場組立て完了時、地震等発生及び足場に支障を及ぼす事項が発生した時。
- ・足場を使用する作業員により毎日、日常点検を行う。

C 下地補修工事

c-1 洗浄工事について

c-1-① 洗浄工事 (塗装面の洗浄)

- ・ 外部面については、常温 120～150kg f /cm²を基本とし、洗浄面より水压を調整する。
- ・ 必要に応じ、ブラシ、スクレーパー等のケレン工具を併用して調整する。
- ・ 高圧水洗浄が不適な場所は、水洗い工法、フロアー工法等を併用する。
- ・ 高圧水洗浄後、残存旧塗膜材を再度点検し、不良個所の有無を確認する。
- ・ 不良個所が確認された場合は、周辺の活膜との段差を解消するように除去、ケレンを行い、なじみやすいようにする。

施工工程

工 程	項 目	使用材料	使用量
1	高圧水洗浄	常温水道水	120～150kg f /cm ²

c-1-② 洗浄工事 (床タイル面の洗浄)

- ・ 金属部分及びガラス部分には、ビニール等で養生を行う。
- ・ 中性洗剤を噴霧容器に入れる。
- ・ 中性洗剤を、タイル部分に噴霧する。
- ・ 固化した汚れは、スコッチブライトで擦り上げる。
- ・ 汚れが分解したら、常温 120～150kg f /cm²の高圧水洗浄を行う。

製 造 所	
●●●●株式会社	
東京都●●●●●●●●	
T E L	03-3934-8771

施工工程

工 程	項 目	使用材料	使用量
1	薬品洗浄	リストン中性バイオ	適 宜
2	高圧水洗浄	常温水道水	120～150kg f /cm ²

使用材料

N O	品 名	規格内容	品種・規格
1	リストンエース	6 ℓ / 缶	外壁用植物性バイオ洗浄剤

c-2 ひび割れ補修について

ひび割れの区分

- 各種のひび割れは、その補修方法の種別により次の通りに区分する。
 - ① ひび割れ巾 0.3mm 未満、またはモルタル表層のみに発生したひび割れでコンクリート躯体まで貫通していないもの。
 - ② ひび割れ巾 0.3mm以上かつモルタル層からコンクリート躯体まで貫通したもの。
 - ③ ひび割れ巾 0.3mm以上かつモルタル表層からコンクリート躯体まで貫通したもの。

c-2-① フィラー処理

- (1) 工事範囲
本補修は、ひび割れの区分〔①〕に適用する。
- (2) ケレン・清掃
ひび割れに沿って旧塗膜部にブラッシング、サンダーケレン等を行う。
- (3) 躯体補修
ケレン清掃後、フィラーを擦り込むようにして塗布する。

微弾性フィラーすり込み
巾0.3mm未満のひび割れ

製 造 所	
●●●●●●●●●●	株式会社
横浜市●●●●●●●●	
T E L	***-***-***

施工工程

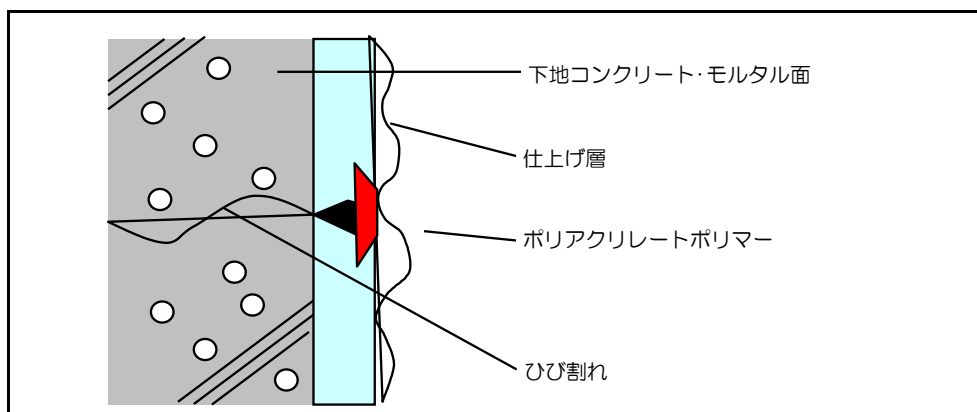
工 程	項 目	使用材料	使用量
1	ポリアクリレートポリマー	ダッシュフレックス	0.3~0.5 Kg/m
2	平滑処理		-

使用材料

N O	品 名	規格内容	品種・規格
1	ダッシュフレックス	20 Kg/缶	ポリアクリレートポリマー

施工方法

- ラスター刷毛を用いて、ひび割れに擦り込む様に塗布する。
- 周囲を平滑になる様に均す。



施工方法

- ラスター刷毛を用いて、ひび割れに擦り込むように塗布する。
- 周囲を平滑になるように均す。

c-2-② Uカットシーリング

- (1) 工事範囲
本補修は、ひび割れの区分〔②〕に適用する。
- (2) ケレン・清掃
ひび割れに沿って旧塗膜部にブラッシング、サンダーケレン等を行う。
を入念に、ケレン・除去する。
- (3) Uカット処理
ひび割れに応じて深さ、巾10mm～15mmの溝をダイヤモンドカッターにて削る。
- (4) シール材充填
溝にシール材を深さに応じてモルタル充填深さが十分に確保出来るよう充填する。
- (5) モルタル充填
モルタルを充填し、平滑処理を行う。

Uカットシーリング工法

巾0. 3mm以上のひび割れ処理

製 造 所	
●●●●株式会社	
東京都●●●●●●●●	
T E L	* * - * * * * - * * * *

施工工程

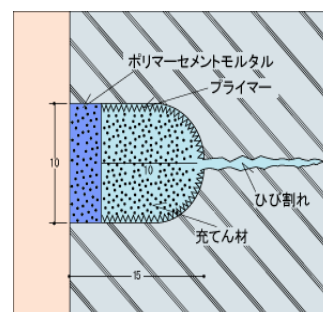
工 程	項 目	使用材料	使用量
1	Uカット処理		-
2	ケレン・清掃		-
3	プライマー塗布	汎用プライマー	10 g/m
4	シーリング材充填	ポリウレタン系シーリング材	適 宜
5	平滑処理	NSカチオンフィラー#1	適 宜

使用材料

N O	品 名	規格内容	品種・規格
1	NSカチオンフィラー#1	20 Kg/袋	カチオン系セメントモルタル

施工方法

- ひび割れに沿って電動グラインダー等を用いて、巾10mm深さ15mm程度にU型の溝を設ける。
- 溝内部に付着している、粉塵をダスター刷毛等で除去する。
- 溝内部にプライマーを塗布する。ただし、埃等付着した場合、又は当日シール材の充填が出来ない場合は、再度清掃しプライマーを塗布する。
- プライマー塗布後、シール材を製造業所の指定する時間内に、十分隅々まで行き渡るように加圧しながら充填し、仕上げ面の表面から2～3mm程度低めに、ヘラで十分押えて表面を平滑に仕上げる。
- カチオンフィラーを用いて、金ゴテ等で埋め戻す。



c-2-③ 低圧注入

- (1) 工事範囲
本補修は、ひび割れの区分〔③〕に適用する。
- (2) 事前処理
ひび割れ廻りのモルタル部浮き、界面剥離は、ピン注入により事前処理する。
- (3) ケレン・除去
ひび割れに添って旧塗材の劣化したトップコートや付着物等を幅30mm程度の範囲を入念に、ケレン・除去する。
- (4) エポキシ樹脂注入
低粘度のエポキシ樹脂を低速低圧にて4穴／m注入し、目止めシールを行う。
必要に応じ施工面の肌合わせを行う。

ボンドシリンダー工法
巾0.3mm以上のひび割れ処理

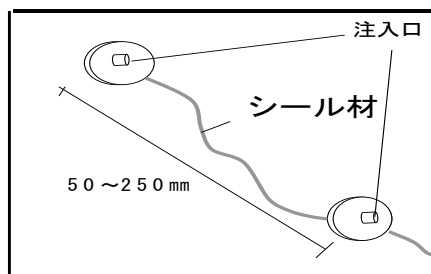
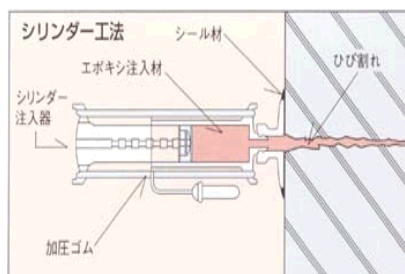
製 造 所	
●●●●株式会社	
東京都●●●●●●●●	
T E L	*ー*ー*ー*ー*ー*ー

施工工程

工 程	項 目	使用材料	使用量
1	台座取付	はくりシールONE	適 宜
2	目止め	はくりシールONE	適 宜
3	注入器具セット	ボンドシリンダーセット	4穴／m
4	低圧注入	ボンド E206	40cc／穴
5	撤去、清掃	ー	ー

使用材料

N O	品 名	規格内容	品種・規格
1	ボンドシリンダーセット		40cc用
2	ボンドはくりシールONE	333 ml／カートリッジ	ー
3	ボンド E206	3 kg／セット	エポキシ樹脂



施工方法

- ・ ひび割れに沿って幅50mm程度の汚れを除去し清掃する。
- ・ シリンダーセットをひび割れが中心がくるように50mm～250mm間隔に仮止めハクリシールONE等で取付ける。（4穴／m）
- ・ ひび割れ部に沿って仮止めハクリシールNEOをパテヘラ等で幅30mm、厚さ2mm程度にシールする。尚裏面に注入材料が漏れる恐れの場合には、裏面に仮止めシールを行うか、裏面より流出しない粘度の注入材を使用する。
- ・ 混練りしたボンドE206を注入機、または注入器具に入れ注入する。
- ・ 注入時は、台座やシール部からの漏れをチェックする。
- ・ シリンダー内の樹脂が全て注入された場合は、継ぎ足して再度注入を行う。
- ・ エポキシ樹脂注入材の硬化を見計らいハクリシールNEO及びシリンダーセットを適切な方法で撤去し、清掃を行う。

c-3 鉄筋爆裂補修・コンクリート欠損補修

製 造 所	
●●●●●●●●●●	株式会社
東京都●●●●●●●●	
T E L	* * - * * * * - * * * *

施工工程

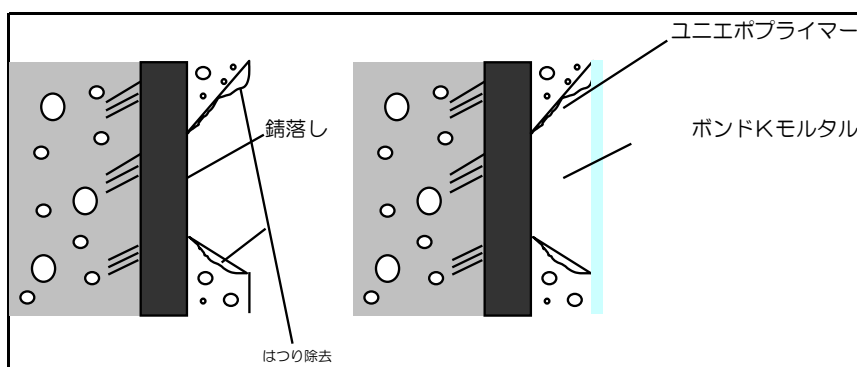
工 程	項 目	使用材料	使用量
1	ハツリ・錆落とし		
2	防錆プライマー塗布	ユニエポプライマー	0.3~0.5 Kg/㎡
3	モルタル埋め戻し	ボンドKモルタル	20mm厚

使用材料

N O	品 名	規格内容	品種・規格
1	ユニエポプライマー	800 g/SET	防錆用エポキシ樹脂系 プライマー
2	ボンドKモルタル	8 L/SET	コンクリート充填補修用軽量 エポキシ樹脂モルタル

施工方法

- ・ 電動ピック、タガネ、ハンマー等を使用し、コンクリート及びモルタル浮き部を鉄筋健全部が露出するまで、はつり除去する。
- ・ 鉄筋の錆はワイヤーブラシ等を使用し、除去する。
- ・ 露出鉄筋及びコンクリート面に、ユニエポプライマーを、刷毛にて下地に十分浸透するまで塗布する。
- ・ ボンドKモルタルを用いて、金ゴテ等で埋め戻す。
- ・ 発錆鉄筋を伴わない欠損部位については、錆落としの工程を除き、上記施工方法と同一に処理する。



c-4 塗膜剥離箇所段差修正

吹き付けタイル、リシン面に適用する

製 造 所		製 造 所	
●●●●株式会社			
東京都●●●●●●●●			
T E L	* * - * * * * - * * * *	T E L	

施工工程

工 程	項 目	使用材料	使用量
1	ケレン・清掃		-
2	平滑処理	NSカチオンフィーラー#1	適 宜
3	肌合わせ	SKシボロール	適 宜

使用材料

N O	品 名	規格内容	品種・規格
1	NSカチオンフィーラー#1	20 Kg	カチオン系セメントペースト
2	SKシボロール	20 Kg	アクリル樹脂エマルジョンローラーリシン

施工方法

- ・ 高圧洗浄機で除去・ケレンを行った後、付着力が低いと判断した残存旧塗膜、または塗膜下地はディスクサンダー、ケレン棒及び皮スキ等を用いて、活膜部分まで入念に撤去する。
- ・ ワイヤブラシ及びダスター刷毛等を用いて、塗膜剥離箇所の清掃を行う。
- ・ 金コテ等を用いて、NSカチオンフィーラー#1を補修部位に塗布する。
- ・ 仕上げ面は既存塗膜よりも気持ち低めとし、平滑処理とする。
- ・ 旧塗膜に出来る限り近い、肌合わせを行う。

c-5 浮き補修

ボンドピンニング工法

製 造 所		製 造 所	
●●●●株式会社		●●●●株式会社	
東京都●●●●●●●●		東京都●●●●●●●●	
T E L	**ー**＊**ー**＊**	T E L	**ー**＊**ー**＊**

施工工程

工 程	項 目	使用材料	使用量
1	穿孔	-	-
2	ケレン・清掃	-	-
3	エポキシ樹脂注入	ボンドE209	30 g/穴
4	ピン挿入	ステンレスピン	全 穴
5	孔埋め	エポキシパテ等	適 宜

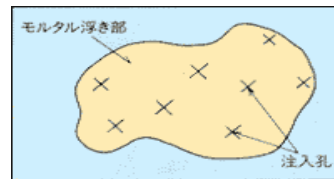
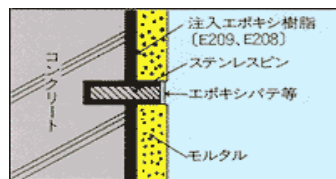
使用材料

N O	品 名	規格内容	品種・規格
1	ボンドE209	6 Kg/SET	注入補修用高粘度形エポキシ樹脂
2	ステンレスピン	-	SUS304、φ4、全ネジ切

施工方法

- ・ 打診ハンマーにより、注入位置についてチョーク、スプレー等で、マーキングする。
- ・ 孔あけはコンクリートドリルを用い、壁面に対して直角となるようにする。
- ・ コンクリートドリル径は4mm以上とし、躯体コンクリート中に30mmの深さに達するまで行う。
- ・ 孔あけ後は十分清掃して、接着の妨げとなる粉末等を除去する。
- ・ ボンドE209を、グリスガンを用いて充填する。充填量は30g/穴と規定し、モルタル面については16穴/m²、狭幅部については5穴/mとする。
- ・ 充填量による加圧しすぎにより、モルタルの浮きあがりに注意する。
- ・ エポキシ樹脂硬化確認後、孔埋めを行う。
- ・ エポキシ樹脂注入後、振動等与えないように、養生期間（24時間）をとる。
- ・ 床モルタル面を除き、全穴ステンレスピンを挿入する。
- ・ 長さは50mmを標準とするが、躯体と浮きの層間によって変動させる。

（
モ
ル
タ
ル
面
）



d シーリング工事

施工工程

既存シーリングの撤去

下地の清掃と確認

※バックアップ材の装てん

マスキングテープ貼りつけ

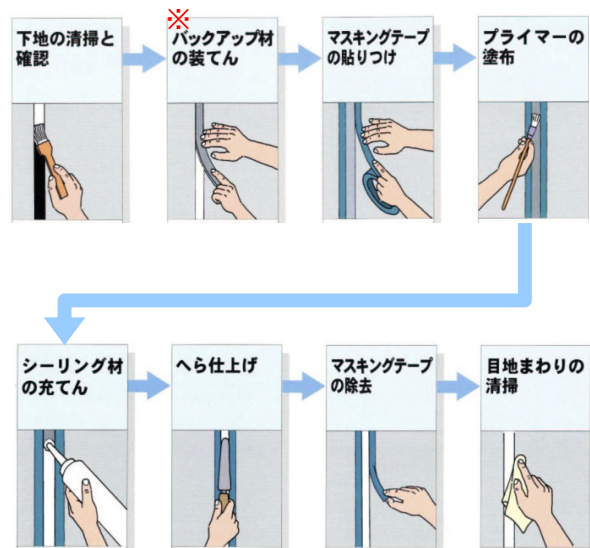
プライマーの塗布

シーリング材の充てん

へら仕上げ

マスキングテープの除去

目地まわりの清掃



※目地深さが、指定寸法以上の場合バックアップ材を装てんする。

製 造 所	
●●●●株式会社	
東京都●●●●●●●●	
T E L	*-**-***-****

使用材料

塗装面 2成分形ポリウレタン系シーリング材

N O	品 名	規格内容	品種・規格
1	シールプライマー#9	淡黄色透明液体 500ml/缶	ウレタン樹脂系プライマー
2	ビューシール6909	100:450 6L/缶	2成分形ポリウレタン系シーリング材

(基材：硬化剤)

非塗装面 2成分形変成シリコン系シーリング材

N O	品 名	規格内容	品種・規格
1	シールプライマー#9	淡黄色透明液体 500ml/缶	ウレタン樹脂系プライマー
2	MSシール	100:8 4L/缶	2成分形変成シリコン系シーリング材

(基材：硬化剤)

施工方法

- ・ 既存シーリング材の撤去 電動工具カッター等により、既存のシーリング材を撤去する。
- ・ マスキングテープ貼り 被着面にテープが食い込まないように注意する。
- ・ プライマー塗布 刷毛で塗りムラのように均一に塗布する。
- ・ シーリング材の充填 目地底まで充填するようにノズルの角度と充填速度を考慮する。
目地の交差部より充填を開始し、打ち止めは交差部を避ける。
- ・ へら仕上げ シーリング材充填後、速やかにへら押さえを行い平滑に仕上げる。
- ・ マスキングテープの撤去 へら押さえ後、速やかに除去する。

e 外壁等塗装工事

製 造 所	
●●●●株式会社	
東京都●●●●●●●●	
T E L	* * - * * * * - * * * *

e-1 一般外壁

施工工程

工 程	材 料	塗回数	希釈剤 希釈割合	塗り重ね時間 (20℃)	標準塗布量 Kg/m ² /回	塗装方法
素地調整	ほこり・汚れを除去し、清掃する。					
下塗	微弾性特殊アクリル系樹脂 エマルジョンフィーラー	1	水道水 3～5%	3時間以上	0.8～1.3 0.3～0.6	砂骨ローラー 一部刷毛
上塗	一液水性反応硬化形シリコン系塗料	2	水道水 5～10%	2時間以上	0.14～0.17	ウールローラー 一部刷毛

使用材料

品名	規格内容	品種・規格
アンダーフィーラー弾性エクセル	16 Kg/缶	微弾性特殊アクリル系樹脂エマルジョンフィーラー
オーデフレッシュSi100Ⅲ	15 Kg/缶	一液水性反応硬化形シリコン系塗料

製 造 所	
●●●●株式会社	
東京都●●●●●●●●	
T E L	* * - * * * * - * * * *

e-2 軒裏・天井、その他指定箇所

施工工程

工 程	材 料	塗回数	希釈剤 希釈割合	塗り重ね時間 (20℃)	標準塗布量 Kg/m ² /回	塗装方法
素地調整	ほこり・汚れを除去し、清掃する。					
上塗	水性反応硬化形エマルジョン塗料	2	水 2～8%	2時間以上	0.16～0.20	刷毛 ウールローラー

使用材料

品名	規格内容	品種・規格
水性ケンエース	16 Kg/缶	水性反応硬化形エマルジョン塗料

e 外壁等塗装工事

製 造 所	
●●●●株式会社	
東京都●●●●●●●●	
T E L	* * - * * * * - * * * *

e-3 内部壁・ボード天井

施工工程

工 程	材 料	塗回数	希釈剤 希釈割合	塗り重ね時間 (20℃)	標準塗布量 Kg/㎡/回	塗装方法
素地調整	ほこり・汚れを除去し、清掃する。					
下塗	水性カチオンエポキシ複合形下塗材	1	水道水 0～10%	3時間以上	0.1～0.16	砂骨ローラー 一部刷毛
上塗	水性反応硬化形エマルジョン塗料	2	水道水 5～10%	2時間以上	0.14～0.17	ウールローラー 一部刷毛

使用材料

品名	規格内容	品種・規格
水性カチオンシーラー	16 Kg/缶	微弾性特殊アクリル系樹脂エマルジョンフィラー
水性ケンエース	16 Kg/缶	水性反応硬化形エマルジョン塗料

製 造 所	
●●●●株式会社	
東京都●●●●●●●●	
T E L	* * - * * * * - * * * *

e-4 内部階段巾木・ササラ巾木

施工工程

工 程	材 料	塗回数	希釈剤 希釈割合	塗り重ね時間 (20℃)	標準塗布量 Kg/㎡/回	塗装方法
素地調整	ほこり・汚れを除去し、清掃する。					
下塗	ターペン可溶2液形エポキシ樹脂シーラー	1		4時間以上 5日以内	0.16～0.2	刷毛 ウールローラー
上塗	弱溶剤2液形ポリウレタン樹脂床用塗料	2	塗料用シンナーA 5～15%	4時間以上	0.2～0.24	刷毛 ウールローラー

使用材料

品名	規格内容	品種・規格
ファイン浸透シーラー	15 Kg/缶	ターペン可溶2液形エポキシ樹脂シーラー
クリンカラーUファイン	15 Kg/缶	弱溶剤2液形ポリウレタン樹脂床用塗料

f 鉄部等塗装工事

製 造 所	
●●●●株式会社	
東京都●●●●●●●●	
T E L	* * - * * * * - * * * *

f-1 鉄部①
一般鉄部

施工工程

工 程	材 料	塗回数	希釈剤 希釈割合	塗り重ね時間 (20℃)	標準塗布量 Kg/m ² /回	塗装方法
素地調整	ディスクサンダー・スクレパー・サンドペーパーなどで錆を完全に除去し、清掃・脱脂して素地を整える。					
下塗	弱溶剤形2液エポキシ樹脂さび止め塗料	1	塗料用シンナー 0～10%	4時間以上 7日以内	0.16～0.18	ウールローラー 又は刷毛
上塗	ターペン可溶2液形ポリウレタン樹脂塗料	2	塗料用シンナー 0～10%	2時間以上	0.12～0.17	ウールローラー 又は刷毛

使用材料

品名	規格内容	品種・規格
ハイボンファインプライマーⅡ	16 Kg/缶	弱溶剤形2液エポキシ樹脂さび止め塗料
ファインウレタンU100	15 Kg/缶	ターペン可溶2液形ポリウレタン樹脂塗料

f-2 鉄部②
バルコニー隔て板、縦樋等

施工工程

工 程	材 料	塗回数	希釈剤 希釈割合	塗り重ね時間 (20℃)	標準塗布量 Kg/m ² /回	塗装方法
素地調整	スクレパー・サンドペーパーなどで、清掃・脱脂し・表面目粗して素地を整える。					
上塗	ターペン可溶2液形ポリウレタン樹脂塗料	2	塗料用シンナー 0～10%	2時間以上	0.11～0.13	ウールローラー 又は刷毛

使用材料

品名	規格内容	品種・規格
ファインウレタンU100	15 Kg/缶	ターペン可溶2液形ポリウレタン樹脂塗料

f 鉄部等塗装工事

製 造 所	
●●●●株式会社	
東京都●●●●●●●●	
T E L	* * - * * * * - * * * *

f-3 鉄部③
鉄骨階段、バルコニー手摺、廊下手摺

施工工程

工 程	材 料	塗回数	希釈剤 希釈割合	塗り重ね時間 (20℃)	標準塗布量 Kg/m ² /回	塗装方法
2種ケレン	電動工具により、劣化し、ぜい弱な塗膜及び錆を全面除去する。電動工具の入らない細かい部分については剥離剤を使用する場合もある。(活膜については除去しないものとする)					
下塗	弱溶剤形2液エポキシ樹脂さび止め塗料	1	塗料用シンナー 0～10%	4時間以上 7日以内	0.14～0.17	ウールローラー 又は刷毛
上塗	ターペン可溶2液形ポリウレタン樹脂塗料	2	塗料用シンナー 0～10%	2時間以上	0.11～0.13	ウールローラー 又は刷毛

使用材料

品名	規格内容	品種・規格
ハイボンファインプライマーⅡ	15 Kg/缶	弱溶剤形2液エポキシさび止め塗料
ファインウレタンU100	15 Kg/缶	ターペン可溶2液形ポリウレタン樹脂塗料

※2種ケレンについては、事前に試験施工を行い、剥離を行う範囲について確認をする。

f-4 鉄部④
鉄骨階段床面

施工工程

工 程	材 料	塗回数	希釈剤 希釈割合	塗り重ね時間 (20℃)	標準塗布量 Kg/m ² /回	塗装方法
2種ケレン	高圧水洗浄(常温1000kg f/cm ²)を基本とし、必要に応じ、電動工具、剥離材を併用してぜい弱な塗膜及び錆を全面除去する。					
下塗	弱溶剤形2液エポキシ樹脂さび止め塗料	1	塗料用シンナー 0～10%	4時間以上 7日以内	0.14～0.17	ウールローラー 又は刷毛
上塗	ターペン可溶2液形ポリウレタン樹脂塗料	2	塗料用シンナー 0～10%	2時間以上	0.11～0.13	ウールローラー 又は刷毛

※2種ケレンについては、事前に試験施工を行い、剥離を行う範囲について確認をする。

使用材料

品名	規格内容	品種・規格
ハイボンファインプライマーⅡ	15 Kg/缶	弱溶剤形2液エポキシさび止め塗料
ファインウレタンU100	15 Kg/缶	ターペン可溶2液形ポリウレタン樹脂塗料

g 防水工事

g-1 ウレタン塗膜防水工法
適用範囲：屋上、ルーフバルコニー

製 造 所	
●●●●株式会社	
東京都●●●●●●●●	
T E L	* * - * * * * - * * * *

施工工程 平場

工 程	区 分	項 目	使用材料	使用量
1	共通	ケレン清掃	—	—
2	共通	素地調整（補修箇所処理）	—	—
3	共通	プライマー塗布	速硬化OTプライマーMブルー	0.1 Kg/㎡
4	共通	防水材塗布	GO-JIN V	1.3 Kg/㎡
4	共通	防水材塗布	GO-JIN V	1.3 Kg/㎡
5	共通	仕上げ材塗布	OTコートA	0.2 Kg/㎡

施工工程 立上り・笠木

工 程	区 分	項 目	使用材料	使用量
1	共通	ケレン清掃	—	—
2	共通	素地調整（補修箇所処理）	—	—
3	共通	プライマー塗布	速硬化OTプライマーMブルー	0.1 Kg/㎡
4	共通	防水材塗布	GO-JIN T	1.3 Kg/㎡
4	共通	防水材塗布	GO-JIN T	1.3 Kg/㎡
5	共通	仕上げ材塗布	OTコートA	0.2 Kg/㎡

使用材料

品 名	規格・内容	品種・規格
速硬化OTプライマーMブルー	15 Kg/缶	
GO-JIN V	18 Kg/缶	高靱性環境対応型ウレタン塗膜防水材
GO-JIN T	18 Kg/缶	高靱性環境対応型ウレタン塗膜防水材
OTコートA	15 Kg/缶	アクリルウレタン系保護塗料

g-2 ウレタン塗膜防水工法
適用範囲：大庇、エントランス庇、小庇、バルコニー床、廊下側溝、巾木等

施工工程 平場

工 程	区 分	項 目	使用材料	使用量
1	共通	ケレン清掃	—	—
2	共通	素地調整（補修箇所処理）	—	—
3	共通	プライマー塗布	速硬化OTプライマーMブルー	0.1 Kg/㎡
4	共通	防水材塗布	GO-JIN V	1.5 Kg/㎡
5	共通	仕上げ材塗布	OTコートA	0.2 Kg/㎡

施工工程 立上り

工 程	区 分	項 目	使用材料	使用量
1	共通	ケレン清掃	—	—
2	共通	素地調整（補修箇所処理）	—	—
3	共通	プライマー塗布	速硬化OTプライマーMブルー	0.1 Kg/㎡
4	共通	防水材塗布	GO-JIN T	1.5 Kg/㎡
5	共通	仕上げ材塗布	OTコートA	0.2 Kg/㎡

施工方法

- ・ 下地補修工事の要項に従い、補修、ケレン、清掃する。
- ・ 下地全体に、速硬化OTプライマーMブルーを塗布する。プライマーは良く攪拌し、刷毛又はローラー刷毛で、ムラの無いように十分塗布する。
- ・ ドレンはタールエポキシ樹脂塗料にて塗装する。廻りは、ウレタンシーリングで水仕舞いを施す。
- ・ 立ち上がり部分（側溝・巾木）には、ウレタンシーリングを施す。
- ・ GO-JIN Tをゴムベラや金ゴテを用い、均一に塗布する。
- ・ GO-JIN Vをゴムベラや金ゴテを用い、均一に塗布する。
- ・ DSカラー・ゼロ立ち上り用をゴムベラや金ゴテを用い、ピンホールが生じないように均一に塗布する。
- ・ ピンホールが発生した時には直ちにエアーを抜いて補修する。
- ・ 防水層が乾燥成膜後に、仕上げ材OTコートAを刷毛又はローラーにて均一に塗布する。

g-3 アスファルトシングル葺き

適用範囲：搭屋斜屋根

製 造 所	
●●●●株式会社	
東京都●●●●●●●●	
T E L	* * - * * * * - * * * *

施工工程 平場

工 程	区 分	項 目	使用材料	使用量
1	共通	ケレン清掃	—	—
	共通	軒先、ケラバ、押さえ金物撤去	—	—
2	共通	素地調整（補修箇所処理）	—	—
3	共通	下地活性剤	リベースSL	0.8 Kg/m ²
4	共通	改質アスファルトシート貼り	ガムクールM	—
4	共通	シングル用接着剤塗布	シングルセメント	1.1 Kg/m ²
5	共通	アスファルトシングル葺き	シングル	—
5	共通	軒先、ケラバ、押さえ金物新設	—	—

使用材料

品 名	規格・内容	品種・規格
リベースSL	15 Kg/缶	下地活性剤
ガムクールM	18 Kg/缶	改質アスファルトシート
シングルセメント	18 Kg/缶	シングル用接着剤

h

その他工事

- h-1 屋上ネットフェンス金網交換
- h-2 バイク置き場金網交換
- h-3 B棟屋上出入口柵補修
- h-4 バイク置場屋根修復
- h-5 同上 トタン壁撤去の上FRP波板張り
- h-6 エントランス入口外割れ部張替え
- h-7 エントランス入口庇（アルミスパンドレル）塗装
- h-8 パーテーションボード交換工事
- h-9 サッシ清掃（外側のみ）

2-8) 品質管理計画

工事環境の把握及び本工事の修繕方法の管理は、現場代理人が実施し、その具体的事項は次の通りとなります。

a 環境

気象データ等による実施期間における総合的な気象条件の把握。
実施期間における温湿度の管理及び記録。
他関連工事における品質への影響の把握、確認及び事項の措置と対策。

b 各種工事

- b-1 共通仮設工事
借用地の現状確認、現場事務所、作業員休憩所、資材倉庫、廃材置場等の使用状況。
- b-2 直接仮設工事
使用材料、仮設状況、開口部の確認、危険箇所の確認、出入口部の養生方法等。
- b-3 下地補修工事
施工方法、作業間隔、施工回数、仕上りの状態、使用量等。
- b-3 シーリング工事
撤去状況、マスキング状況、施工手順、仕上りの状況。
- b-4 補修工事
施工方法、仕上りの状態等。
- b-5 外壁塗装工事
塗装方法、塗装間隔、塗り回数、稀釈率、仕上りの状態、膜厚の確保、使用量等。
- b-6 鉄部塗装工事
塗装方法、塗装間隔、塗り回数、稀釈率、仕上りの状態、膜厚の確保、使用量等。
- b-7 防水工事
施工方法、作業間隔、施工回数、稀釈率、仕上りの状態、膜厚の確保、使用量等。
- b-8 その他工事
仕上りの状態、規格品の確認、施工図の作成、納まりの状態、機能強度等。

c 資材

- ・ 数量、荷姿、ロット番号、材質、色、規格、寸法等
- ・ 材料成分表
- ・ 保管状況

d 記録

- ・ 写真
- ・ その他（有資格者の確認、仮設物の許可・届出等）

e 試験施工

- ・ 必要に応じて試験施工を行う。

f 品質管理検査実施要領

- f-1 資材（塗料・防水材・シーリング材・下地補修材等）の管理
種類・荷姿・数量・色・資材等を確認する。
- f-2 開缶・搬入時
材料の状態・色相・規格品・規定寸法等を確認します。
- f-3 調合・調整時（稀釈・混合攪拌時）
本工事使用材料希釈は、試験施工及びメーカー指定の比率で行います。

g 作業における管理

各工程について目視により、作業状況、仕上り状況等の確認をする。
是正事項があれば、指導是正実施します。

h 社内検査体制

社内検査項目

- | | |
|-------------|------------------------|
| h-1 直接仮設工事 | ・・・ 工事施工中、完了時。 |
| h-2 下地補修工事 | ・・・ マーキング完了時、工事施工中、完了時 |
| h-3 シーリング工事 | ・・・ 工事施工中、完了時。 |
| h-4 外壁等塗装工事 | ・・・ 工事施工中、完了時。 |
| h-5 鉄部等塗装工事 | ・・・ 工事施工中、完了時。 |
| h-6 防水工事 | ・・・ 各防水工事施工中、完了時。 |
| h-7 その他工事 | ・・・ 工事施工中、完了時。 |

2-9) 安全管理計画

a 安全衛生管理方針

本工事に関する安全管理方針は、現場代理人をはじめ関係者全員が、現場の環境に応じた安全、及び衛生管理活動を積極的に展開し、発注者から信用される労体制を整え、事故及び働災害を未然に防止し、健康で楽しい仕事をすることにあります。

このため弊社では、毎年その年ごとの労働災害防止計画を策定し、各営業所に配布し、その徹底を要請しています。

当現場では、この方針に従うと共に、労働安全衛生関係法規を遵守して、協力会社と共に無事故・無災害で工事を完了するように努力致します。

b 工事安全衛生管理体制

本工事における安全衛生管理体制は、現場代理人が安全衛生責任者となり、関係協力会社を指導・監督し、安全管理を推進します。

一方、関係協力会社の責任者は、各々自社の安全衛生責任者として、傘下労働者の安全、現場の及び衛生に関する全ての責任を持つとともに、弊社関係者及び管理者の指示や指導を守り、事故及び災害の防止に努めなければなりません。

c 安全衛生管理活動の実施

弊社は、協力関係会社とともに、次の事項を実施し、これを労働者全員に徹底するように努めます。

c-1 安全衛生会議

現場代理人は、管理下の全協力会社が参加する安全衛生協議会を設置し、これを定期的（1ヶ月に1回）に開催します。なお、協議会で検討する主な項目は、次のようなものとします。

- 1-①工事工程及び作業間の連絡調整に関する件
- 1-②現場安全衛生パトロールに関する件
- 1-③安全衛生教育及び安全の行事に関する件
- 1-④工事に使用する設備および機械等の設置に関する件
- 1-⑤有機溶剤等の容器の集積に関する件
- 1-⑥緊急時、事故・災害発生対策に関する件
- 1-⑦その他工事の安全衛生に関する件

c-2 安全衛生教育に関する援助・指導

全ての労働者は、弊社現場代理人或いは安品環本部が行う安全教育を受けなければなりません。また、現場代理人は、関係協力が自社の労働者に対して行う安全・衛生教育及び集会について、積極的に援助しなければなりません。

c-3 安全衛生パトロールの実施

関係協力会社の責任者は、1回／月に作業現場の安全衛生パトロールを実施し、不安全状態または不安全行動の点検、及び発見に努めなければなりません。

現場代理人、及び協力会社安全衛生責任者は、このパトロールとは別に、少なくとも1日1回以上の現場パトロールを行うものとします。

c-4 有資格者による作業

関係協力会社は、資格を必要とする作業を行うときは、その作業に関わる資格を有し作業主任者を選出しなければならない場合は、有資格者の内から、現場作業に適した者を、現場代理人は選任しなければなりません。

c-5 安全確認運動の推進

弊社は、各労働者が、作業の安全を確認する手段として協力会社ごとまたはグループごとに、危険予知活動（KYK）を実施します。

これによって、各労働者が作業内容を正しく把握し、それに付帯する危険を未然に把握するための運動を展開します。

c-6 健康診断の徹底

現場代理人は、法定の健康診断（定期及び特殊健康診断）を受けさせ、その診断した記録を確認しなければなりません。

新規入場時にアンケートを実施し、記入したものを現場代理人が確認します。

健康上問題のある労働者に対して、配置転換などの適切な措置を取るようにします。

c-7 年少者、女子、高齢者等についての配慮

弊社は、18歳未満の年少者及び女子の使用については、労働基準法に準じた範囲の高齢者については、本人の経験・心身の状況・健康状態などを考慮して、適切な作業に従事させるように指導します。

c-8 緊急時の連絡体制

緊急時、及び事故・災害発生時の対策については、着工前に、「緊急連絡体制表」を工事事務所に掲示します。

c-9 その他

現場作業に必要な安全衛生保護具、標識類については、常に良好な状態に整備すると共に、作業区域の整理整頓に心掛け、特に居住者を巻き込むような事故・災害が発生しないよう、全員が協力して工事を進めます。